

おたふくかぜワクチン供給不足が見込まれる現状での医療施設における対応  
－ 予防接種推進専門協議会からのお願い－

2021年4月25日

予防接種推進専門協議会

予防接種推進専門協議会は、「予防接種制度について継続的に評価・検討し、全ての年代に必要な予防接種を国内で適切・安全に実施できる体制整備に貢献する」ことを目的に活動を続けております。

現在国内で任意接種として接種が行われているおたふくかぜワクチンは、小児・成人のいずれにおいてもワクチンにより免疫をつけるためには2回の接種が推奨されています。

[http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine\\_schedule.pdf](http://www.jpeds.or.jp/uploads/files/vaccine_schedule.pdf)

([http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline\\_03\(3\).pdf](http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/vaccine-guideline_03(3).pdf)) 今般、国内でおたふくかぜワクチンを製造している2社のうちの1社から、ワクチン原液製造工程に逸脱が確認されたため、製造所内で保管していた製品の出荷止めを行う旨の連絡がありました。原因は究明され、再発防止策も完了したようですが、従来の出荷計画に大幅な遅れが生じ、出荷再開の時期は、2021年10月末となるようです。それまでの間は、1社で製造されているおたふくかぜワクチンのみの供給となり、入手が困難な状況になることが予想されます。

2021年4月23日現在、流行性耳下腺炎の小児科定点あたり報告数は少なく推移していることから(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/10/2096-weeklygraph/1654-13mumps.html>)、予防接種推進専門協議会としては、同ワクチンの2回目の接種は、供給が再開された11月以降に延期し、1回目の接種を優先したいと考えております。

しばらく接種が困難な状況が続くことが予想されますが、各医療機関におきましては**おたふくかぜワクチンの1回目接種を優先する**ことにつきまして、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。